

令和3年第10回函館市教育委員会定例会 会議録

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 令和3年(2021年)10月27日(水) 午後0時 |
| 2 場 所 | あさひ小学校 |
| 3 出席者 | 辻教育長, 小葉松委員, 須田委員, 神田委員 |
| 4 欠席者 | 藤井委員 |
| 5 事務局 | 永澤学校教育部長, 吉本生涯学習部次長, 横川教育政策推進室長,
渡邊管理課長, |
| 6 傍聴者 | 0人 |
| 7 付議事項 | |

日程第1	議案第1号	函館市教育振興審議会に対する諮問事項に関し, 議決を求めることについて
------	-------	-------------------------------------

日程第2	報告第1号	令和3年函館市文化賞受賞者の決定について
------	-------	----------------------

日程第3	報告第2号	第31回函館市青少年芸術教育奨励事業受賞者の決定について
------	-------	------------------------------

■辻教育長

- 開会宣言 午後0時
- 議事録署名人に, 小葉松委員, 須田委員を選任。
- それでは, 日程第1, 議案第1号「函館市教育振興審議会に対する諮問事項に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

■学校教育部長

- 議案第1号「函館市教育振興審議会に対する諮問事項に関し, 議決を求めることについて」説明する。諮問事項は, 「函館市教育振興基本計画の中間年における計画の推進状況の検証および見直しについて」である。平成30年3月に策定した函館市教育振興基本計画は, 平成30年度から令和9年度の10年間を計画期間としているが, 「計画の推進状況や社会情勢の変化などを踏まえ, 必要に応じて計画の見直しを検討」することとしている。本計画の策定後, 国においては, 第3期教育振興基本計画が閣議決定されたほか, 学校における働き方改革などの取組やGIGAスクール構想に基づく学校環境の急激な情報化の推進, 不登校児童生徒などの教育の機会の確保など, 学校教育にとって, 大きな変化を迎えているところである。そのため, 様々な教育改革や社会情勢および毎年実施している点検・評価の内容などを踏まえて, 計画の5年目が終了する令和5年3月を目途として, 本計画を改定するもので, 見直しを検討するにあたり, 函館市教育振興審議会条例第2条の規定に基づき, 函館市教育振興審議会に諮問するものである。なお, 今後のスケジ

ルールについては、審議会において5回の審議を行い、令和4年7月に答申をいただき、教育委員会定例会において、答申に基づく改定案を協議・決定いただいた後、パブリックコメントの実施を経て、最終的に計画を改定することを予定している。

■辻教育長

- 議案第1号について何かあるか。

(意見なし)

■辻教育長

- 議案第1号については、原案のとおり決定する。
- 次に、日程第2、報告第1号「令和3年函館市文化賞受賞者の決定について」報告を求める。

■生涯学習部次長

- 報告第1号「令和3年函館市文化賞受賞者の決定について」報告する。9月28日に開催した函館市文化賞審議会において、今年の文化賞贈呈者に、郷土文学の研究と振興に尽力された櫻井健治氏、茶道の普及継承に尽力された三井とくゑ氏、書道の普及と発展に尽力された安保勝順氏、海藻の研究により地域の振興に貢献された安井肇氏の4名が決定した。
- 櫻井健治氏は、長年にわたり、函館ゆかりの歌人・石川啄木の研究者として活躍し、多くの著書や文献を発表するとともに、学会や講演会を通じ、啄木文化の魅力を国内外へ発信し、その普及に尽力された。また、郷土の歴史や函館に関わる文学作品を広く市民に伝えるため、積極的な講演活動や執筆に取り組んでいるほか、函館市背少年芸術教育奨励事業の審査員として、次世代を担う青少年の文化・芸術の資質向上に努めるなど、本市の文化の振興に貢献されている。
- 三井とくゑ氏は、昭和20年に、茶道宗徧流への入門以来、長年にわたり茶道の研鑽を積み、自身の茶道の技術向上に努めるとともに、後進の指導育成に尽力された。また、函館市茶道連盟会長、事務局長、理事を務め、学校茶道交流会、青函ツインシティ交流茶会、新春茶会などの事業の拡大と定着に尽力されたほか、小中学生に茶道を体験させる函館市文化芸術アウトリーチ事業や、男性が作法にとらわれず茶会を楽しむ「茶遊会」の結成に取り組むなど、茶道の普及、継承に努め、本市の文化の振興に貢献されている。
- 安保勝順氏は、長年にわたり書道の研鑽に努め、漢字書・近代詩文書で多くの作品を発表し、北海道書道展、毎日書道展、創玄展において高い評価を受けるとともに、審査員と

して、全道・全国の書道展において活躍された。また、函館書藝社副会長、函玄社会長、北海道書道展理事として、函館のみならず北海道書道界の発展に寄与されるとともに、書道教育の充実や後進の指導育成に尽力されたほか、函館市文化団体協議会会長として、協議会の発展に寄与されるなど、本市の文化の振興に貢献されている。

- 安井肇氏は、道南地域が主産地であるガゴメコンブの有用性をいち早く見出し、バイオファーミング技術の開発により、高品質なガゴメコンブを安定的に生産することができる体制を確立するとともに、地元企業等との連携により、ガゴメコンブを活用した化粧品や医療用原材料など多くの商品化に成功されている。また、北海道大学での学生指導を通じて我が国の水産業を支える人材の育成に尽力されたほか、講演やメディアで研究成果を発信し、地域資源のブランド力向上に繋げるなど、地域の振興、発展に貢献されている。

■ 辻教育長

- 報告第1号について、何かあるか。

(意見なし)

■ 辻教育長

- 次に、日程第3、報告第2号「第31回函館市青少年芸術教育奨励事業受賞者の決定について」報告を求める。

■ 生涯学習部次長

- 報告第2号、函館市青少年芸術教育奨励事業についてであるが、書、音楽、文学、美術部門の4部門すべての受賞者が決定した。音楽部門では、総数40人の応募があり、8月22日に芸術ホールで開催した音楽コンクールにおいて受賞者を決定した。書部門では、総数177人の応募があり、8月30日に亀田交流プラザで席書大会を開催予定であったが、北海道における緊急事態宣言の発令により、中止とした。後日、出場者に作品を提出していただき、10月11日に教育委員室で審査会を行い、受賞者を決定した。美術部門には、総数186人、文学部門には、総数335人の応募があり、それぞれ9月17日と22日に本審査を行い、受賞者を決定した。また、10月16日から18日にかけて、芸術ホールにおいて開催した「児童生徒書・美術展」において、各部門受賞者の作品の展示を行った。

■辻教育長

- 報告第2号について、何かあるか。

(意見なし)

■辻教育長

- これで、報告事項を終了する。

■終了宣言

- 午後0時17分

議事録署名人 小葉松 洋 子

〃 須 田 新 崇

調製者庶務係 中 田 壮 研